

富士電波工機 株式会社

(旧 SPS シンテックス)

所在地:埼玉県鶴ヶ島市富士見 6-2-22

業 種:高周波応用装置、試験測定器類の製造及び材料開発コンサルティング

T E L:049-286-3211



世界最高レベルの熱伝導率を有する「ヒートシンク材」の開発

金属単体よりも熱伝導率の優れている「銅とダイヤモンドの組み合わせによるヒートシンク材」を開発。「世界最高レベルの熱伝導率の達成」に成功。電子機器類から、LEDや他の電気製品など熱を発生するものへのヒートシンク材として活用に期待が持てる。

本業の動向について

高周波応用加熱装置、電子応用機器、高周波電気炉、放電プラズマ装置及び、試験測定器類の製造販売及び材料開発コンサルティング。

業況としては月単位での受注の多少の変動はあるがトータルで見ると横ばいから上昇傾向にある。

公設研究機関との連携事業について

連携先公設研究機関の名称

地方独立行政法人大阪市立工業研究所

所在地

大阪府大阪市城東区森之宮 1 丁目 6 番 50 号

連携内容

電子機器・電子機器類の放射熱材(ヒートシンク材)を金属単体よりも熱伝導率の優れている銅とダイヤモンドの組み合わせによるヒートシンク材の開発。

連携した動機やきっかけ

以前より、SPS装置の開発や技術普及の支援を行っていたため。

連携の効果

多方面よりの問い合わせが多くなった。これまでに無い材料の組み合わせがインパクトをあたえた。

電子機器類の小型化により熱がこもりやすく、LEDや他の電気製品など熱を発生するものへの活用ができること。

連携して最も効果のあったこと

金属単体では得られなかった熱伝導率の達成をすることが出来た。世界最高レベルの熱伝導率の達成をすることが出来た。

連携して最も困難だったこと

熱伝導率の良い材料の組み合わせ。高密度化をさせる技術。材料を粉末のまま焼結する技術開発。固体と液体の共存という部分。

連携するメリット・デメリットについて

メリットとしては、自社には無い機械類や装置類を持っており、それを使用できること。また、文献や資料なども手に入らないような物がありそれを見ることができると。

デメリットとしては、情報やデータの機密保持が難しいこと(情報漏えいということではない)。情報やデータを独占することが難しいこと。

連携に際しての注意、アドバイスなど

開発を行なうに当たって市場のシーズ、ニーズの調査をよく行わないと開発製品が実用化に結びつかないことになる。連携開発などの場合は短期間の間に行なわれるので開発スケジュールの計画をしっかりと練ってから行なうことである。

公設研究機関との連携で行政に望む支援

開発製品に対する知的財産の取り決めの際に、公設試験機関が有利なこともあり改善策を望む。

会社概要

設 立:昭和 29 年 11 月

資 本 金:9,800 万円

従業員数:90 名

U R L : <http://www.fdc.co.jp/>